

東京尋常師範校長 元田 直校閱  
新撰 小學作文書  
東京 學園會 編纂

尋常科用  
第四

K121.82  
36  
.4

K121.82

36

4

東京尋常師範學校長 元畠 直校閱

新 撰

# 小學作文書

尋常科用

第四

東京 學園會 編纂

新撰 小學作文書第四

凡 例

一 本卷ハ尋常小學科第四學年ノ課程ニ照シ、簡易ナル漢字交リ文、及日用書類ヲ記載シタルモノニテ、前卷ニ比スレバ稍密ニ入り、本卷ニ至リ始メテ普通簡易ノ記事文及日用書類ヲ綴リ得ルニ至ラシム。

二 文題ハ兒童ノ經驗及想像外ノモノヲ避ケ、其心情ニ恰當シテ解シ易ク、且實用ニ適切ナルモノヲ撰ベリ。

№5256/  
23

新小學作文書第四

凡例

本卷ハ尋常小學科第四學年ノ課程ニ照シ、簡易ナル漢字交リ文及日用書類ヲ記載シタルモノ  
 二テ前卷ニ比スレバ稍密ニ入り、本卷ニ至リ始メテ普通簡易ノ記事文及日用書類ヲ綴リ得ルニ至ラシム。

二、文題ハ兒童ノ經驗及想像外ノモノヲ避ケ、其心情ニ恰當シテ解シ易ク、且實用ニ適切ナルモノヲ撰ベリ。



明治廿三年三月

學園會

新撰小學作文書第四

第一課

新年ヲ賀スル文。



例

恭しく新年を賀す。  
其後ハ清々沙汰に打過  
去。海客トされ度也。

住所。

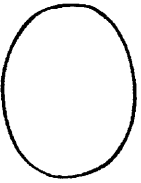
明治三年一月一日。

姓名。

例

三三國三郡三村三番地

姓名様



郵便はかき

此表面より宿所姓名を限り認むべし

第二課

安否ヲ問フ文。

第一例

時候見舞ノ文。

俗 コノゴロハフジユシノジユウデアリマスガアナタ  
オカハリモアリマセヌカ。オミマヒマウシアゲ  
マス。

文 此頃是不順の時候にハ  
御褒りも之なくハ也。此見舞  
上ノ以上。

第二例。 同返事。

俗 オホセノトホリ フジユシノジユウデアリマスガ  
ワタシユト、フジニゴキヤウイタシテ井マスカス

ハバカリナガラ、ゴアシンシクダサイ。

文  
仰せの如く不順の時催に由委私事無事りに勉強いたし居申。慚りながら済あ心下さるべく由頓首。

練習。

次ギノ俗語ヲ文語ニ改メヨ。

寒中見舞ノ文。

(一) 厳しい寒さでありますがあなたぶど

でござりますか。おままひまうーあげます。

無沙汰ヲワケル文

(二) 其後はごぶさたいたしまーたが、あなたおかはりもありませんか。おままひまうーあげます。

次ギノ題ニ由リテ、手紙文ヲ書ケ。

(一) 寒中見舞に答ふる文。

(二) 暑中見舞に葡萄酒をわくる文。

第三課。

報知ノ文。

例。轉宅ヲ知ラスル文。

俗  
ワタクシ、ツガフニヨリ、コノタビ、ミニ子、ミニバジチヘ  
ヒキウリマシタカス、コノダジ、オシモマシアゲマス。

文  
私儀都合により、此度……町……番  
地へ引移り申上。此後、汲濟知らせ  
申上。以上。

練習。次ギノ俗語ヲ文語ニ改メヨ。

歸宅ヲ知ラスル文。

(一) 昨夜無事に歸宅し、またからご

あんん、ください。この、たん、おしらせ  
まうーます。

入學ヲ知ラスル文。

(二) 私昨日から、高等小學校へ入學いたしま  
たから、このたん、おしらせまうーます。

出立ヲ知ラスル文。

(三) 私、商業見習のため、明日東京へ出立  
ますから、このたん、おしらせまうーます。

次ギノ手紙文ヲ書ケ。

(一) 試驗<sup>ケンギ</sup>及<sup>キヲ</sup>第<sup>ダイ</sup>を知らする文。  
(二) 病氣<sup>ゼンキ</sup>全<sup>ゼン</sup>快<sup>クワイ</sup>を知らする文。

第四課。人ヲ招ク文。

例 相談<sup>サウタン</sup>アリテ人ヲ招ク文。

俗  
ゴサウダシ イタシ タイ コトガアリ マスカス ゴクラウ  
ナガラ、ミヤウニチゴゴサンジゴロ、ワタシノウチへ  
オイデ クダサイ。

文  
〔 濟相控<sup>セイサウケン</sup>いたし度<sup>タク</sup>事<sup>ジ</sup>之<sup>ノ</sup>ありルア、濟  
若勞<sup>ニクワ</sup>ながら明日<sup>アシタ</sup>午後<sup>キョウゴ</sup>三時<sup>サンジ</sup>頃<sup>マタ</sup>拙宅<sup>セツタク</sup>へ

〔 濟出<sup>セイシュ</sup>下<sup>ゲ</sup>され度<sup>タク</sup>ル。頓首<sup>トンシュ</sup>。

練習。

次ギノ俗語ヲ文語ニ改メヨ。

急用<sup>キウヨウ</sup>アリテ人ヲ招ク文。

(一) 至<sup>シ</sup>急<sup>キウ</sup>濟相控<sup>セイサウケン</sup>いたしたい事<sup>コト</sup>がありまから、濟  
若勞<sup>ニクワ</sup>ながら、れいでください。

誕生<sup>タシン</sup>日<sup>ニチ</sup>ニ友<sup>トモ</sup>ヲ招ク文。

(二) 今日<sup>コンニチ</sup>の私<sup>シ</sup>の誕生<sup>タシン</sup>日<sup>ニチ</sup>につき、夕飯<sup>ユフイ</sup>をあげたい  
から、午後<sup>キョウゴ</sup>四時<sup>シヨウジ</sup>に、れいでください。



次ギノ手紙文ヲ書ケ。

(一) 紀元節キゲンセツに密ヒソカを招く文。

(二) 花見ハナミに友を招く文。

第五課。 人ニ招カルル返事。

例。 相談ニ招カルル返事。

俗

オテガミノオモムキ、シヨウチイタシマシタ。オホセノ  
ジカンニハ、サウ井ナクマ井リマセウ。

文

手紙の趣承ソウジヤウ知致チチ仰せの  
時間には相違サイイなく業上ゴウジヤウ仕合シアヒへら。

練習。

次ギノ俗語ヲ文語ニ改メヨ。

招キヲ断コトワル文。

(一) 手紙テガミお見ミいたイました。折角セツカクの 招マせ左サれ  
ども、今日コンニチはびようきでまゐられませぬ、あいから  
ずズねばねばばーーください。

招カル、ニ答コタフル文。

(二) 本ホン日は紀元節キゲンセツにつつままねねきき下くだされれままして、  
ありがたありがたううななんどんどます。ミミ時トキ頃頃にはささううあ

なくまゐりませう。

第六課。謝禮ノ文。

例。馳走ニ預リシヲ謝スル文。

俗  
センジツハマ井リマテスイロイロゴチソウニアヒナリ、アリガタウゾシマス。スコシデスガ、ナシヒトカゴ、オコサマガタへ、サシアゲマス。オウケトリクダサイ。

文  
先日はまかり出種と御馳走に相成有りかたく存じ候。些少ながら梨一籠御子様方へ送上いたし、御受納

下さるべく候。頓首。

練習。

次ギノ手紙文ヲ書ケ。

- (一) 果物を贈られしを謝する文。
- (二) 野菜を贈られしを謝する文。
- (三) 茶花を贈られしを謝する文。

第七課。問合セノ文。

例。書物ノ代價ヲ問合スル文。

コノ本オタナデウリタシマシタルニ、ホシレキシハ、

俗  
ダイカ、ナニホドデスカ。オセハサマデモ、オシラセ  
クダサイ。

文  
此度貴店にて賣出の日本歴史  
は代價何程に由也。御手数教ながら  
通知らせ下され度由。

練習。

次ギノ手紙文ヲ書ケ。

椅子ノ有無ヲ問合スル文。

(一)明日の客がまゐりますから椅子四脚おかり

まうーたい、たうぶんふようのーながあり  
ますなら。ちよつと、おしらせください。

在宅ノ有無ヲ問合スル文。

(二)先日おはなしまうーおきまゐたる事で、明  
日まゐらうと、おもひます。御在宅の有無お  
かがひまうーます。

同返事。

(三)御書面お見いたしました。明日は在宅です  
から、おいでください。

次ギノ手紙文ヲ書ケ。

- (一) 蒸氣船出帆の期日を同合する文。
- (二) 出先の人に帰宅の日を同合する文。
- (三) 生糸の相場を同合する文。

第八課。注文ノ文。

例。新聞紙ヲ注文スル文。

俗  
 ミニ、シンペンシ、サンガクブシノダイキン、クジツセ、コノテカ  
 ノナカニフウジテアゲマスカラ、マイニチ、オクリクダサイ。

ミニ新聞紙三ヶ月分の代金九拾錢

大

此書状中に封ト入差上取旨日と注  
配達下され度也。

練習。

- (一) 習字本式控部注文する文。
- (二) 茶五百斤注文する文。
- (三) 桑苗を注文する文。

第九課。催促ノ文。

例。注文ノ品ヲ催促スル文。

センジウゴチウモン イタシマシタシナモノ、マダ名ウチヤク

俗 イタシ マセヌ デ、ハナダ コマリ マシタ。アイナルベグシ  
キフ オクリテクダサイ。

文 先日御注文致し申物今以て到  
着いたとす甚だ困り申相成る  
至急御送り下さるべく也。

練習。

(一) 貸金催促の文。

(二) 懸賞せし取物の代償を問合する文。

第十課。

出荷案内文。

例。

俗 ゴチゴモシノシヨモツ、コシニチキシヤビシデツギノ  
トホリサンゲマス。コノダシ、ゴアンナイマウシアゲマス。

御注文の書物本日汽車便にてたの  
通り着上。此後御案内申上者也。

一日本讀本 吉部。

此代金四拾八錢也。

右之通り。

練習。

次ギノ 出荷案内書ヲ書ケ。

(一) 白木綿 貳百端 但 壹端に付三拾六錢。

(二) 高机六脚 但 壹脚に付五拾錢。椅子四脚。

但 壹脚に付七拾五錢。

第十一課。見舞ノ文。

第一例。病氣見舞ノ文。

俗  
ハイケイ。センゴロカラ。ゴビヨウキノコトヲキキマシ  
タガ。コノゴロハイカカデゴザリマスカ。オミマヒノ  
シルシマデニクワシヒトラリサシアゲマス。

文

拜啓。先頃より此病氣の由に承  
り此憂は頃は如何に此坐也。  
清見舞の原迄に菓子一折送上  
いたし。頓首。

第二例。火事見舞ノ文。

俗  
ハイケイ。サクヤハ。ゴキンジョニクワジガアリマタツ  
デシタガ。アナタノオタクハ。ゴブシデアリマシタ  
カ。トリアヘズ。オミマヒ。マウシ。アゲマス。

折愈。昨夜は御近所に火事。これ

文

ありの由承りて受貴宅所至難に  
入らせられぬ也。取あらずは見舞  
上の頓首。

練習。

(一)大風見舞の文。

(二)大水見舞の文。

(三)病氣見舞に答ふる文。

第十二課。

祝ヒノ文。

例。賞與ニ預リシ人ヲ賀スル文。

俗

ハイケイ。アチスヘイゼイギヤウジヤウガ多シイニヨツテ、  
カウチヤウカラゴウビヲイタダキマシタソウテ、オメデウ  
ヅンジマス。フハ、オイヒマテカクノトホリデゴザリマス。

文

拝啓。先君平生行状正しきにより  
校長より所褒美にあづかりの由、目  
出度存し奉りの由、先づ所祝ひまで  
此の如くに申坐る也。

練習。

(一)試験及第を賀する文。

(二) 入學を賀する文。

第十三課 一般演習。

次ギノ俗語ヲ文語ニ改メヨ。

注文物ノ品切ヲ斷ル文。

(一) 清注文の……品切今品切でありますから、  
まありーだいにすぐにたくります。

約束ヲ斷ル文。

(二) 明日……へ花見に係る清約束……  
がよんどころない用事ができまゝたから、た

ことわりまうーます。あーからず たほーめー  
ください。

來訪ノ人ニ謝スル文。

(三) 昨日は甚かき清辱ねくださりまゝたが、  
すでーつれいたーまゝた。たほまた、ろの  
うち たいで下さい。

作文ノ添削ヲ頼ム文。

(四) 御綴系中……迷惑でありますせうが、たひま  
の昔……の作文添削下さい。



學校へ欠席届ヲ頼ム文。

(五)私儀、今日、病氣で不素フソサンいたりますから、御せ  
わなから、この欠席届、校長へ御差出  
下さい。

買物ヲ頼ム文。

(六)明日、東京へ御出なれば、面倒オモシロイでも、ミニ  
御買カヒ求モトめ下さいませ。よつて、金貳圓、御頼み申  
します。

見舞ニ預リシヲ謝スル文。

(七)私事、病氣の節、度々、此見舞ミマヒ下さりま  
して、ありがたう存じます。御蔭カゲを以もつて、病  
氣中、快ヨクよく暮クラました。昨儀キノヒながら、書状シヨウジヤウ  
を以もつて、御禮オンレ申上ります。

次ギノ趣意ヲ以テ、手紙文ヲ作レ。

遠方へ物ヲ贈ル文。

(八)時候。 〇安否ヲ問フコト。 〇品物ヲ贈ルコト。  
〇尊敬ノ語。(願首謹言ノ類)

遠方ニ在ル友ノ安否ヲ問フ文。

(九) 時候。 曰安否ヲ問フコト。 曰自分ノ無事ヲ知ラス。  
曰餘ハ後便ニ申送ルト云フコト。

出立ヲ知ラスル文。

(十) 拜啓。 曰長々世話ニナリシコト。 曰何處ニ出立ス  
ルト云フコト。 曰御禮カタガタ報知スルト云フコト。

第十四課。

例。

稻ハうるちもちノ別アリ。夏ノ中頃苗  
ヲ田ニ植工秋ニ至リテ熟ス。其ノ穀ハ

飯ニ炊キ或ハ酒ヲ造ルベシ。

練習。

- (一) 麥。
- (二) 豆。
- (三) 粟。

第十五課。

例。

梅ハ春ノ初メニ花開キ白色又紅色ニ  
シテ香極メテ好シ。實ハ鹽ニ漬ケテ  
梅干ヲ製スベシ。

練習。

- (一) 桃。
- (二) 季。

第十六課

例。

傘ニハ日傘雨傘アリ。イヅレモ割竹ヲ骨トシ之ニ厚キ紙ヲ粘リテ製ス。日光又ハ雨ヲサクルモノナリ。

練習。

- (一) 蝙蝠傘。
- (二) 扇。
- (三) 蚊帳。

第十七課

次ギニ掲ゲタル語句ヲ用ヒテ文章ヲ作レ。

蠶。

- (一) 桑ノ葉ヲ食フ。 生長。 繭ヲ作ル。 繭
- ヨリ糸ヲトル。 絹ヲ織ル。

寒暖計。

- (二) ガラスニテ細キ管ヲ製ス。 水銀ヲ盛ル。
- 水銀ノ上下ニテ寒暖ヲ計ル。

靴。

- (三) 半靴長靴アリ。 獸皮ヲ以テ製ス。 雨天。

晴天。

筆。

(四) 毛ヲ以テ造ル。竹又ハ木ノ柄ヲ附ク。  
文字ヲ書ク。畫ヲ寫ス。

第十八課。

例。

鰯ハ海魚ニシテ體小サク、色青シ。其ノ  
肉ハ食用ニ供シ、又燈油ヲ製スベシ。

練習。

(一) 鰯。

(二) 鰯。

第十九課。

例。

鷺ハ白色ニシテ、足頸共ニ長キ鳥ナリ。  
常ニ淺瀬ヲ涉リナガラ魚ヲ捕リテ食フ。

練習。

次ギノ俗語ヲ文語ニ改メヨ。

鶴。

(一) 鶴ハ鷺ノヤウニアサセラワタリナガスシヨク

モツヲサガシマス、ユエニアシクビクチバシガナガク  
テ、水ノナカデ、シヨクモツヲモトルニベンリデ  
アリマス。

水鳥

(二) 雁鴨ノ類ハフカイトコロニ入りテ、シヨクモツヲ  
モトメマス、ユエニアシクニ水掻キガアリマシテ、オヨグ  
ニベンリデアリマス。コレヲノトリヲスベテニツトリ  
トマシマス。

第二十課。

例。

菊ハ十月頃黄白赤等種々ノ花ヲ開ク  
故ニ庭園ニ植エテ、其花ヲ賞ス。

練習。

- (一) 楓
- (二) 朝顔

第二十一課。

例。

柿ハ夏ノ初メニ白キ花開キ、秋ニ至リテ  
實熟ス。其ノ果ハ生ニテ食ヒ、又乾カシ

テ蓄フルコトヲ得。

練習。

(一) 林檎。

(二) 栗。

(三) 梨。

第二十二課。

例。

帆舞船ハ風ノ力ヲ借り、帆ヲ張リテ走ル  
船ニシテ人ヲ乗セ、又ハ荷物ヲ運送スル  
ニ用ヒラル。

練習。

(一) 蒸氣船。

(二) 馬車。

(三) 人力車。

第二十三課。

例。

杉ハ喬木ニシテ其葉針ノ如シ。其ノ材  
木ハ家船及ビ諸ノ器具ヲ作ルニ用フ。  
皮ハ又屋根ヲ葺クニ用ヒラル。

練習。

(一) 松。

(二) 檜。

第二十四課。

次ギノ語句ヲ用ヒテ文章ヲ作レ。

くぬぎ。

(一)喬木ナリ。質堅シ。材ハ薪炭トナス。皮ハ漆物ニ用フ。

綿。

(二)諸國ニ産ス。實ヨリ毛ヲ取ル。木綿ヲ織ル。種ハシボリテ油ヲ製ス。

鳶。

(三)人里ニ住ム。眼丸シ。爪鋭シ。羽ハ茶

褐色ナリ。

動物ヲ食フ。

腐敗セル魚

鳥ノ肉ヲ食フ。

鶯ウツリス。

(四)茶色ニ緑ヲ帯ブ。春ヨリ夏ニカケテ囀ル。聲諸鳥ニ冠タリ。人ニ愛セラル。

蟻。

(五)夏ノ間ニ働ク。食物ヲ穴ノ中ニ貯フ。冬ニ至ル。食物ニ乏シカラズ。

蜂。

(六)夏ノ間ハ花ノ甘キ汁ヲ貯フ。蜂蜜。  
花ナキ時。食物ニ乏シキユトナシ。

第二十五課。

例。

銀ハ白色ニ青色ヲ帯ビ光強クシテサビ  
難ク黄金ニ次ギテ價貴キ金ナリ。通常  
貨幣ヲ造リ又諸ノ飾物ニ用ヒラル。

練習。

- (一)黄金。
- (二)鐵。

第二十六課。

例。

蓮ハ沼池ニ生スル植物ニテ莖長ク葉丸  
シ。花ハ白或ハ薄紅ニテ甚ダ美シ。實  
一莖ハ共ニ食用ニ供スベシ。

練習。

- (一)クワ井(慈姑)。
- (二)サツマイモ(甘藷)。

第二十七課。

例。



犬ハ其性馴レ易ク人家ニ養ハル。能ク  
夜ヲ守リ又獸獵ノ助ヲナス。其ノ革ハ  
敷物トシ又大鼓ヲ張ルベシ。

練習。

(一)猫。 (二)牛。

第二十八課。

次ギノ語句ヲ用ヒテ文章ヲ作レ。

鹿。

(一)山林ノ中ニ棲ム。脚細シ。疾ク走ルコト

巧ナリ。性柔和。草木ノ葉及ビ芽ナド  
ヲ食フ。皮ハ敷物トスベシ。皮ハ革ニ製  
スベシ。

羊。

(二)人ニ畜ハル。毛細シ。毛長シ。紙ヲ食フ。  
毛ハハサミテ羅紗ヲ織ルベシ。肉ハウマク  
シテ食用ニ供スベシ。

茶。

(三)灌木。暖地ニ適ス。春若芽ヲ摘ミトル。

蒸ス。揉ム。乾カス。飲料。

葡萄

(四)蔓生。地ニハヒ、或ハ棚ニマトフ。春小サキ  
花開ク。夏實ヲ結ブ。味甘ク酸シ。

菌

(五)種類多シ。秋最モ多ク出ヅ。松茸。推  
茸。初茸。煮テ食フ。香アリ。味ヨシ。

第二十九課。

例 紀元節。

紀元節ハ二月十一日ニシテ神武天皇御  
即位ノ日ナリ。コノ日ハ日ノ丸ノ國旗  
ヲアゲ、人民各其ノ業ヲ休ミ、日本帝國ノ  
萬歳ヲ祝スル日ナリ。

練習。

- (一)天長節。 (二)神嘗祭。

第三十課。

例 櫻。

櫻ハひがんざくらやまざくらいざくら

等アリ。花ハ四月頃枝ノ頂ニ咲キ其色  
白ク少シク紅色ヲ帶ブ。材質堅クシテ  
種々ノ器具ヲ作ルニ宜シ。實及ビ花モ  
亦食フベシ。

練習。

(一)梅。 (二)桃。

第三十一課。

次ギノ俗語ヲ文語ニ改メヨ。

キツノキ (啄木鳥)。

(一)キツノキハツ子ニ木ヲツヰイテ木ノナカニ  
井ル虫ヲクヒマス。ユエニクチバシガカタクツ  
ヨクテ、木ヲツクニベシリテアリス。又足  
ハマヘウシロニオノオノフタツノユヒガアリス  
テツノツメガスルドク、木ニツカマルニベシリテ  
アリス。

神功皇后

(二)神功皇后ハ仲哀天皇ノ御后テアリス。  
昔シ三韓ヲ征伐シテ長クワガクニニ

貢物ヲタテマツラセマシタ。

楠正成

(三)楠正成ハ攝津ノ國櫻井ノ宿ニテ子正行ニワカレ、自分ハ湊川ヘマ井リテ尊氏ノ兵トタカヒ、トウク討死シマシタ。

豊臣秀吉

(四)豊臣秀吉ハ初メノ名ヲ木下藤吉郎トマウシマシタ。尾張ノ國筑阿彌彌助ノ子デ二十二歳ノ時初メテ尾張ノ國主織

田信長ニ仕ヘマシタ。

日光山

(五)日光山ハ下野ノ國ニアリテ徳川家康公ヲ祭リタ宮ガアリマス。ソノ宮殿ノ美麗ナト、山水ノ景色ガヨイノハ、東洋デイチバンデアリマス。

菅原道真

(六)菅原道真ハ心ガ正シク、智慧ガ深く、諸ノ學問ニ通シタ人デアリマシタ。今ノ天神様

八道真公ヲマツリタデアリマス。

第三十二課。

左ノ趣意ヲ以テ文章ヲ作レ。

馬。

(一) 性質。

□ 効用。

△ 皮ノ効用。

林檎。

(二) 形。

□ 開花ノ時節。

△ 實ノ熟スル時節。

□ 味。

死。

(三) 製法。

□ 種類。

△ 用方。

某村。

(四) 位置。

□ 境界。

△ 山川。

□ 産物。

第三十三課。 届書。

第一例。

欠席届。

私儀病氣に付本日出席仕難由。此後  
御届申上由也。

第何年級。

何某。

印

明治三二年三月三日。

何尋常小學校長何某殿。

第二例。

拾物届。

一懷中時計。

寺箇。

右ハ本日午前九時頃ニ町通行の節  
拾取<sub>ル</sub>石<sub>ノ</sub>現<sub>レ</sub>取<sub>ル</sub>相<sub>シ</sub>添<sub>テ</sub>股<sub>ノ</sub>洲<sub>ノ</sub>届<sub>セ</sub>ル也。

明治ニ年ニ月ニ日。

何<sub>ノ</sub>所。

何某<sub>ノ</sub>印

何警察署長何謹啟。

練習。

上ノ書式ニテ次ギノ居書ヲ書ケ。

- (一) 父痛氣ニ付當日より一週間ノ欠席届。
- (二) 家内子不足ニ付十日間ノ欠席届。
- (三) 遺物届。
- (四) 改印届。
- (五) 寄留届。

第三十四課。願書。

例。

退校願

何某。

右之者商業見習のため東京市へ遣へて  
間退学致させ度此故相致す也。

恒所。

何某。

印

明治三年三月三日。

何小學校長何誰殿

第三十五課。預り證書。

例。

金子預り證書。

一金貳百圓也。

右之金子正に預り申也。御入用の節は何  
時にてても相渡し申すべく也。後日のため  
其證件の如し。

預り人。

姓名。

印

明治三年三月三日。

姓名殿。



練習。

上ノ書式ニナラヒテ次ギノ證書ヲ書ケ。

- (一) 金百圓 (但一圓不のま) の預り證書。
- (二) 玄米五俵 (但一俵に付四斗三升入) の預り證書。
- (三) 金五拾圓 (但一圓五分) の預り證書。
- (四) 懷中時計 (但一圓) の預り證書。

第三十六課。借用證書。

例。

金子借用證書。

一金貳拾圓也。但一圓利息五分也。

右之金子正に借用致し、就るは来る

明治三年三月三日限り前書但一

書の利息お加へ相違なく返済致すべく

左後日のため其條件の如し。

明治三年三月三日。

借主。 姓名 (印)

借人。 姓名 (印)

姓名殿。

練習。

上ノ書式ニナラヒテ次ギノ證書ヲ書ケ。

- (一) 金貳拾圓の借用證書。但し返済の期日は本年十二月三十日にして年利を割なり。
- (二) 金貳百五拾圓の借用證書。但し返済の期日は明年六月廿五日にして年利息なり。
- (三) 金四拾圓の借用證書。但し借用の當日より満

去ケ年限りに返済の約束にて年利を割なり。

新撰 小學作文書第四終。

明治二十三年五月三日印刷今年五月五日出版  
明治二十三年八月廿日訂正再版印刷今年八月廿日出版

錢十價定

編纂

學園會

東京市神田區表神保町十番地

發行者兼  
印刷者

森本芳之助

東京市神田區佐久間町三百十八番地

發賣所

中村與右衛門

東京市日本橋區橋町四丁目十六番地

發賣所

水野慶治郎

東京市日本橋區通油町十八番地

版權  
所有

